

# 子供の健診を活用した健康支援事業

令和3年6月作成  
吹田市・吹田市教育委員会

## 【事業概要】

匿名化された既存の健診情報（乳幼児健診情報・学校健診情報）を国立循環器病研究センター及び大阪大学において一体的に分析し、データやICT技術を活用しながら、子どもと保護者の健康増進に取り組む。

## 背景及び推進体制

### 【国・大阪府の動向】

国は健診情報の一元管理のための環境整備（マイナポータル等）を推進。府は2025年の万博開催に向け、データヘルス※を柱の一つに位置付けるスマートシティの取組を推進。

### 【本市を取り巻く状況】

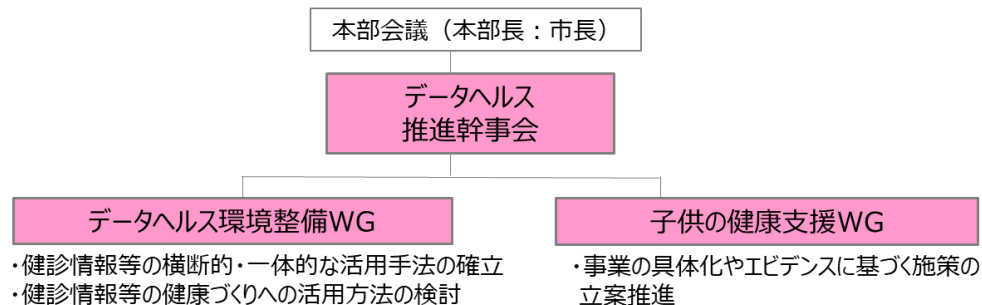
全国でトップレベルである本市の平均寿命や健康寿命をさらに延伸するためには、北大阪健康医療都市（健都）に集積する健康医療関連の企業・研究機関とも連携し、多角的な情報を活用したデータヘルスの取組が不可欠。

※「データヘルス」：電子化された健康医療情報を活用し、健康状態に即したより効果的・効率的な保健事業の推進を図ること

### ＜本市のデータヘルス推進体制＞

左記状況を踏まえ、「データヘルスの推進」を市の重要施策と位置づけ、市の健康づくり施策を短期間で集中的に推進するため、市長をトップとする健康・医療のまちづくり推進本部の下に、組織の枠を超えた「データヘルス推進幹事会」を設置

### 健康・医療のまちづくり推進本部



## 既存の健診情報の活用・分析等（今夏実施予定）

- 全国に先駆けて取り組んできた学校健診情報の電子化や子供の生活習慣病予防検診（血圧測定・血液検査）を活用し、**子供の健康課題の見える化**と**データに基づく予防策等の開発**を目指す。
- 具体的には、乳幼児健診と学校健診を匿名化した上で、研究機関（国立循環器病研究センター、大阪大学）に提供し、一体的に分析を行い新たな知見の獲得を目指す。
- さらに、得られた知見を踏まえ、生活習慣の改善等を図るための手法と市民への還元方法について、市の関係部署で横断的に検討する。

### ＜市保有情報の提供の流れ＞

